

平成30年度 益田市男女共同参画計画 進捗評価表

基本 目標	基本 施策	評価・課題(H30)	審議会からの意見・提案
目標Ⅰ 男女の人権の尊重			
施策1	人権尊重の意識づくり	講演会、研修会、研究発表会、各教室等を継続実施。内容は男女共同参画の視点で、対象者ごとに各課工夫し開催した。講演会のアンケートに「友達、家族に伝えたい」等、前向きな意見が多くあった。また、相談体制の充実、学校における人権教育の充実に向け、研修等の継続が必要。生活課題の変化に応じた研修企画が今後の課題と言える。引き続き、意識啓発活動を行い人権尊重の意識づくりに取り組む。	・取組の効果は、具体的な関連性を明確に説明してほしい。 ・「カタリ場」など、互いの意見を交換する取組は男女共同参画を推進する。継続してほしい。 ・講師の男女比、年齢、益田の人を活かす等、バランスよい企画にしてほしい。 ・男女共同参画の推進は「まずで暮らしたいと思えるまちづくり」に結びついていることを意識して取り組んでほしい。
目標Ⅱ 安心・安全な暮らしの実現			
施策2	女性に対する暴力の根絶	「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーンを通し情報を発信した。デートDVの未然防止取組を目的に中学校教職員を対象に研修会を実施した。暴力根絶のために、様々な場面での意識啓発活動を継続する必要がある。相談体制については益田圏域の関係機関と各連絡会を通し、被害者支援について相互理解を深めた。今後も、連絡会、研修会の継続により適切な支援に努め、連携強化を図る。	・DV相談等、被害者や相談者が安心で安全な暮らしができるよう取り組んでほしい。 ・「デートDV」防止の研修は開催時期を踏まえ、学校現場で取り組めるよう講師の育成をしてほしい。 ・学校で男女共同参画の取り組みを継続してほしい。
施策3	生涯を通じた男女の健康支援	男女共同参画の推進には、男女がともに健康で生活できることが重要。各検診、健康相談、健康教室等で男女共に幅広い年代が利用しやすい夜間、休日の開催日を設定した。地域行事とのコラボレーションや参加型の健康教室では男性の参加が増え効果的だった。引き続き男女ともに参加しやすい環境づくりを図る。また、妊娠、出産、子育てと、切れ目のない支援について、今後も既存の母子保健・子育て支援・相談事業を充実し取り組む。	・切れ目のない妊娠・出産・子育て支援はDV予防にも繋がる。継続してほしい。 ・「イクメン」の取組ははじめ、働き方改革が子育てと仕事を両立し収入も確保できるサポートになるよう、社会全体で関わってほしい。
施策4	安心して暮らせる環境づくり	関係機関との定期的な会議等により、情報共有、課題の検討を行い、役割分担や連携強化につながっている。また、各関係機関の機能や制度についての住民周知にも努めた。企業向け認知症サポーター養成講座を実施し働く世代への普及、啓発につながった。認知症カフェや子育ての悩みについて交流の場を持った。相談の場や支援制度を男女ともに利用してもらうため、引き続き、市民への周知に取り組む。	・市民が制度を利用しやすい情報提供や取組を進めてほしい。
目標Ⅲ あらゆる分野における女性の活躍			
施策5	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大	審議会、委員会等への女性の登用率は、平成29年度よりは0.6ポイント減少し、32.6%となった。庁内女性管理職の割合は14.3%であるが、男女にかかわらず役職がつくことへのプレッシャーがある中、フォロー体制等について課題がある。地域において、MRT（まちづくりラウンドテーブル）での食育をテーマとした取り組みでは、女性の参加者が92人中41人と多かった。引き続き、地域への啓発活動を行い、男女共同参画の推進に努める。	・企画立案に於いて男性だけ、女性だけの構成ではなく、男女共の意見が反映されるよう男女共同参画を認識し、取り組んでほしい。
施策6	女性の活躍推進	ワーク・ライフ・バランスの講演会を実施し、アンケート回答者の8割が満足と回答。9割以上が今後も講演会の実施が必要と回答した。引き続き意識啓発に努める。企業等に女性活躍推進に関するパンフレット配布を行い情報提供に努めた。「まず子育て応援宣言企業登録制度」の推進により登録が11社から22社へと大幅に増加した。引き続き、関係機関、企業と連携しながら結婚、子育てなど男女ともに安心して働ける職場環境づくりに努める企業の拡大に取り組む。	・子どものころからのキャリア教育が進む中、性別でなく多様性を持ち、労働者について学ぶ機会を提供してほしい。 ・「益田子育て応援宣言企業」登録数が昨年の2倍近くとなりよかった。取組を継続してほしい。
目標Ⅳ 男女共同参画社会の実現に向けた環境整備			
施策7	男女共同参画の視点で各種点立の整備	保護者、子ども、介護者、高齢者、障がい者等が安心して生活することができるように様々な事業を実施しており、多くの利用があった。引き続き、すべての人が安心して生活することができるよう、各事業の整備を図りながら実施していく。	・意見なし
施策8	男女共同参画の視点で防災参画体制の確立	防災分野での男女共同参画の推進のためのパネル展示を行った。防災訓練、防災講座においても男女共同参画の視点での意識啓発を行った。ハザードマップ防災ガイドにトイレ、更衣室など避難所生活における女性への視点について掲載した。自主防災組織の構成員は自治会等の役員を兼ねた男性が多くを占めているが、引き続き女性の参画を呼びかける。	・ハザードマップの作製等、防災分野に於いても、直に女性の意見が反映されるよう男女共同参画を意識し取り組んでほしい。